

## ダンス授業の教材開発に関する研究 ～小学校教諭のインタビュー調査を中心に～

岡本浄実\*

### はじめに

平成20年3月に告示された中学校学習指導要領の改訂により、「武道」および「ダンス」が中学校で必修化された。現在は、小学校1年生から中学校2年生までは表現運動・ダンスの必修、中学3年生から高校3年生までは選択と位置付けられている。連続性をもったダンス教育が行われるようになったといえよう。

体育における「表現運動・ダンス」は、他の単元と異なり勝敗がない、個性を生かせる、友達との一体感が味わえるなど、他のスポーツ領域と違う特性が多くみられる(村田：1991)<sup>1</sup>。他のスポーツ領域にはない身体教育の期待は大きい。一方でダンス必修化に伴い、中村(2009)は、多くの教員が指導力不足への不安を抱くだろうと述べている<sup>2</sup>。教員の指導に関する研修について山口(2015)は、ダンス指導において生じる課題や困難点を「ダンス指導不安」と定義して不安構造を分析<sup>3</sup>し、「知識不足に対する不安」「指導経験不足に対する不安」「授業構成に関する不安」「生徒に対する不安」「指導法に対する不安」の5つの不安から構成されることを報告している。また、「生徒たちが求めるレベルのことがらを教えたい」という教師の理想と、「自身にそれを教える技術がない」という教員の現実に起因する報告もある<sup>4</sup>。和光ら(2015)は、ダンス指導が苦手な原因として、身体表現に対する難しさより恥ずかしさの方が

大きく影響することを示唆した<sup>5</sup>。つまり、ダンス授業を担当する教諭の不安や意識の要因を定量的に明らかにした。同時に、小学校学習指導要領解説体育編(以下、学習指導要領解説とする)(文部科学省：2018)<sup>6</sup>に基づいた授業実践研究<sup>7,8</sup>や単元<sup>9,10</sup>も多く展開されている。学校現場の授業形態の実態調査では、「表現運動」における、指導言語の問題は古くて新しい問題<sup>11</sup>や画一的な一教材を通した指導法だけではなく、「導入・なか・終末」といった1時間の授業構成および数時間に及ぶ単元計画の流れを踏まえた研修会などが必要である<sup>12</sup>ことを報告している。

ダンス指導を担当する教員の「知識不足に対する不安」「指導法に対する不安」を軽減する教材開発や研修を構成するための基礎的資料を得ることを目的し、小学校教員と大学教員が共同でダンス教材開発を試みた。本研究では、小学校教諭のインタビュー調査からダンス教材の開発及び実践の質的検討を行う。

図1.に本研究の研究デザインを示した。ダンス授業の教材は、教科横断的な学習の教材<sup>13</sup>としても汎用できると考えフォークダンス教材に着目した。フォークダンスは、日本の地域や世界の文化にも触れることができる。小学校5・6年生の踊りに例示されている日本の民謡(エイサー：沖縄県)を教材とした。小学校教諭のダンス授業意識を検討するためA小学校教諭

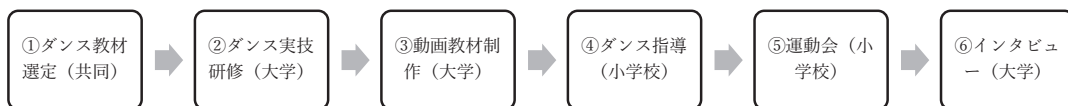


図1. 本研究のデザイン

\*京都文教大学こども教育学部

4名が初めて学ぶオリジナル教材を使用した。オリジナル教材は、ダンス専門家が「ダンス指導の知識」や「指導法」と合わせダンス実技研修で教授した。小学校教諭は、ダンス実技研修で習得した教授法を活用し児童にダンスの指導を行い運動会で発表を行った。本研究は、ダンス実技研修後に行った「ダンス指導の意識」に関するインタビュー調査の報告である。

### 1. 学習指導要領におけるダンスの位置づけ

文部科学省手引き<sup>14</sup>では、小学校の「表現運動系」領域および中学校・高等学校における「ダンス」領域の総称を「ダンス系」領域、小学校の「表現リズム遊び」領域（小学校低学年）、「表現運動領域」（小学校中学年・高学年）の総称を「表現系運動系」領域としている。また、「ダンス系」領域の主内容（種目）には「表現系」、「リズム系」「フォークダンス系」の3つのダンスが示されている（表1.参照）。本研究の「ダンス授業」は、小学校教育現場で取り扱うダンス学習と定義する。小学校学習指導要領解説体育編（以下、学習指導要領解説とする）（文部科学省：2018）<sup>15</sup>では、学習の基盤となる資質・能力の育成するためには、教科等横断的な学習を充実することや、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を、単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通して行うことが示されている。

近年、リズム遊び授業のパフォーマンスと認知活動の両面から検討<sup>16</sup>やプログラミング教材を取り入れた実践が報告されている<sup>17</sup>。一方で

教師が決まった動きを教えたり映像を模倣させたりする指導<sup>18</sup>や運動会や体育祭の発表のための練習を授業としている学校もある<sup>19</sup>。

## 2. 用語の定義

### (1) ダンス実技研修

本研究では、オリジナル教材として作成した創作エイサーをダンス専門家（研究協力者）がオンラインミーティングルームツール zoom を用いて A 小学校教諭に実施したダンス実技指導をダンス実技研修とする。

### (2) ダンス教材

日本の民踊や外国の踊りを身に付けて、日本の地域や世界の文化に触れながら踊りで交流する力を培い、中学校のダンスの学習につなげていくことが求められる。日本の民踊とは、それぞれの地域で親しまれている民踊や日本の代表的な民踊で、歌詞に伴う手ぶり、低く踏みしめるような足どりと腰の動き、輪踊り、1人踊りが多いなどの日本の民踊に共通する特徴をもつ踊りを示している。小学校5年生・6年生の踊りの動きの例示では、「ソーラン節（北海道）やエイサー（沖縄県）などの力強い動きでは、低く踏みしめるような足取りや手振りで踊ること」を示されている。

### (3) エイサー（沖縄県）

エイサーは、旧盆を祝う伝統的なエイサーと自由に振り付けをする創作エイサーがある。沖縄の創作エイサーは、一般的なダンスでありレクリエーションである。今回は、創作エイサーの楽曲から「ダイナミック琉球（作詞：平田太一、作曲：イクマあきら）」を選曲した。

表1. 「ダンス系」領域の学校種別における内容構成

学校種		小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校・高等学校
領域名		「ダンス系」領域			
		「表現運動系」			「ダンス」
内容 (種目)	「表現系」	ア.表現リズム遊び	ア.表現運動	ア.表現運動	ア.創作ダンス
	「リズム系」 および「フォークダンス」	イ.リズム遊び  (中・高学年へのつながりを考慮し簡単なフォークダンスを含む)	イ.リズムダンス  (フォークダンス可)	イ.フォークダンス  (フォークダンス可)	イ.フォークダンス  ウ.現代的なリズムのダンス(その他のダンス)

### 3. 研究方法

#### (1) 研究方法

半構造化面接法によるインタビュー調査を実施した。インタビューガイドを用いて実施した。インタビューガイドは、「ダンス実技研修」「ダンス指導の意識」「ダンス指導とICTの活用」について質問した。なお、インタビューは、zoomで個別に行った。また、インタビュー内容は、研究対象者の同意を得たうえでzoomの録音機能を使用し録音をした。

#### (2) 調査対象者

A 小学校教諭 4名

#### (3) 調査期間

ダンス実技研修を2021年5月14日に顔合わせを行い、5月21日～8月18日に実施した(表2)。ダンス実技研修は、愛知大学非常勤講師：杉町明子が担当した。大学での教授経験もあるダンス専門家として研究協力を得た。

インタビューは、2021年12月27日～2022年2月27日にA小学校教諭(B・C・D・E)に対し個別で実施した。

表2. ダンス実技研修

回	月日	回	月日	回	月日
1	5月21日	2	5月28日	3	6月4日
4	6月7日	5	6月14日	6	6月18日
7	6月28日	8	7月5日	9	7月15日
10	7月16日	11	8月18日		

#### (3) 分析方法

分析は、佐藤<sup>20</sup>による質的データ分析の帰納的アプローチを参考にした。インタビュー内容は、zoomミーティング録音機能で録音、逐語化した。逐語化したデータは、オープンコーディングによるコード化、焦点的コーディングによるカテゴリ化を行った。各カテゴリ間の関連を検討し概念カテゴリを生成した。

#### (4) 倫理的配慮

本研究は、京都文教大学「人を対象とする研究」計画等の審査に関わる委員会による研究倫理審査を受け、承認された(2021年4月19日付、承認番号2021-1)。調査対象者に対して、本

究の趣旨、目的、研究に関して丁寧に説明すること、参加協力は任意であり協力を拒否しても回答内容によっても不利益は生じないこと、インタビュー内容を本研究以外には使用しないこと、匿名化しデータ化すること、データの管理方法、対象者の自由意思によってインタビューを中断できること等について文章および口頭で説明し、文章による同意を得た。

### 4. 結果

#### (1) 対象者

A小学校教諭の4名の概要を表3.に示した。今回の対象は、すべて女性教諭である。教育歴は、6年～33年で小学校ダンス指導経験がある教諭である。また、インタビューは時間は平均56分であった。

表3. 対象者概要

対象	学年	教育歴	時間
B	6年	33年	58分
C	6年	31年	55分
D	5年	6年	58分
E	5年	12年	52分

#### (2) ダンス実技研修のポイント及び参加者

ダンス実技研修の参加者およびポイントを表4.に示した。毎回、参加者の同意を得てzoomの録音機能を用いて録音を行った。全回出席できた教諭は1名のみであった。出席できなかった教諭の対応として録音データから15分程度の実技研修ダイジェスト版と実技研修メモ(表5.)を作成し小学校教員に提供した。表6. 第1回実技研修「踊りをつくる準備体操」の指導場面、表7.に「動きのフレーズをつなげる」の指導場面の一部を示した。また、大学研究者より授業用の動画教材を5本作成し提供した(表8.参照)。

表4. ダンス実技研修の参加者及び実技のポイント

回数	参加者	実技のポイント
顔合わせ	BCDE	自己紹介、ステップ紹介、ダンス指導のイメージ等
1	BCDE	準備運動、曲の構成、カウントと歌詞、ブロック*表5. 表6. 参照
2	BD	サビとメイン
3	BCDE	指導のポイント、キーワード・合言葉の提案、動きの分解
4	BDE	振りの特徴を捉えた言葉をつくる、マーキングのすすめ
5	BCDE	準備運動時の子どもの反応、振りの言葉と歌詞
6	BD	フレーズと歌詞と動きを合わせえる
7	BDE	動きのフレーズの工夫
8	BCDE	フレーズをつなげる、パートの検討、*表7. 参照
9	BD	各パートのタイミング
10	BD	フレーズの準備とカウント
11	BCDE	各パートのフォーメーション

表5. 第1回実技研修メモ(実技研修動画より筆者作成)

項目	ポイント
①踊る体をつくる準備体操	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキップ 普通のスキップから足をあげてリズムをとる</li> <li>・ハムストリング 伸ばす</li> <li>・股関節 (研修場面1 参考)</li> <li>・足首</li> <li>・腕をまっすぐ上げる</li> </ul>
②曲をかけて8カウントで数える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フレーズ1 8×2</li> <li>・フレーズ2 8×8</li> <li>・フレーズ3 間奏 8×2</li> <li>・フレーズ4 サビ 8×2</li> <li>・フレーズ5 Aメロ 8×8</li> <li>・フレーズ6 Bメロ 8×8</li> <li>・フレーズ7 サビ 8×8</li> </ul>
③動画を見て動きのイメージをする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フレーズ1 スロー</li> <li>・フレーズ2 ゆるり サビ</li> <li>・フレーズ3 間奏</li> <li>・フレーズ4 サビ</li> <li>・フレーズ5 スピード空手</li> <li>・フレーズ6 空手</li> <li>・フレーズ7 サビ</li> </ul>
④曲の構成	曲調で整理すると5ブロックを言葉でイメージ (スロー・サビ・空手・ラップ・サビ)

⑤肩幅・手の角度	肩幅・手の角度を意識することできれいに見える
⑥準備運動で振り付け	準備運動で振り付けの一部が連動する。ここがポイントになる。声掛けし(言葉を書け)動く(例:ズン・パー・トントン、膝を近づけてホイホイ、左足斜め一歩前等)
⑦振り写し	フレーズごと「動きのパターン」として体になじませる。 〈例〉パターン1:ふって(7・8)→船漕ぎ(1・2)→弓あげて引く(3)→閉じる・ギュ(5)→ひらくパ(6)→トントン(7・8) ◎しっかり止まる

表6. 第1回実技研修:「踊りをつくる準備体操」の指導場面の一部

研修場面1: 相撲さんですね。これはね、どうしても膝が中に行きやすいです。なので、これは、両手で膝をグーッと後ろに押します。で、このときに体が前になってしまうとまずはOKとして、膝を後ろに押すということを第一にしてみてください。ここから、ちょっとやってみましょうか。体を起こしてきますね。と、ここの筋力がけっこう要りますよね。なので、これで耐えるにはここの筋力も必要になってくるので、まず膝を外にするというのがわかってきたなと思ったら頑張っって少し体を起こして10秒だけ止めてみるとか。なんか、そんな感じでこれを慣れさせていってみてください。(第1回実技研修の動画より抽出)

表7. 第8回実技研修:「動きのフレーズをつなげる」の指導場面の一部

研修場面2: ①分解して動くこととつなげて動くという順番でやった後、次に、②カウントで動きのタイミングとカウントの流れを伝えていく。最後に、③つくったワードを合わせて行います。ワードは、今まであんまり出てきてないですが、どこで活用するかというと、覚えたり体に馴染ませるときにワードが生きます。最後の仕上げがワードを活用しながら体に馴染ませてもらうという順番でやるとやりやすいと思います。で、フレーズごとで区切った動きをどんどんつなげていくことで長くしていくという感じですね。  
(第8回実技研修の動画より抽出)

表8. 提供した動画教材

No.	タイトル	備考	時間
1	教材の説明		3分
2	メインパートとラスト	正面	7分
3	パターン①	背面	7分
4	パターン②	平面	7分
5	思いを言葉に		19分

## (3) インタビュー分析結果

逐語録データをオープンコーディングによるコード化、焦点的コーディングによるカテゴリ化を行った結果、110のコードから19のカテゴリが生成された(表9. 参照)。

表9. コーディング表

カテゴリ	コード例	カテゴリ	コード例
1. 教材情報	YouTubeで探す	7. 環境	曲を聞く
	先輩教員のアドバイス		校内フリースペースの活用
	流行の曲から選ぶ		幼少期の運動環境
	小学校のダンス特集雑誌		動画が見られる環境があった
2. 指導不安	完璧に踊らなければ	8. カウント	しっかりこどもに教えた
	踊りはすぎではない		ダンスに欠かせないと知った
	毎年、運動会が不安		説明する自信になった
	とりあえずやらなければ		子どももカウントを使った
	誰も教えてくれない		曲を聞きカウントで覚える
3. 実技不安	先生は踊れない	9. 踊りのイメージ	リーダーの自信
	自分で作るのは苦手		こどもが構える
	個人レッスンを受けた		苦手の壁をつくる
	見たまま動けない		踊る恥ずかしさ
	YouTubeで覚えるしかない		振付を覚える
4. 安全対策	組体操なら教材がある	10. フレーズ	こどものやる気を引き出す
	組体操なら見通しが持てる		次、どうなる
	安全なことを優先に考えがち		沖縄のイメージ
5. つながる準備運動	私の財産になる	11. ICT 活用の不安	地元の産業を思い出す
	準備運動からダンスを始める		どんなダンスになるか期待
	股関節の意識		耳で聞き動く
	ダンスになるという期待感		動きと合わせて作り上げた
	気が付いたらできている		フレーズの意味が分かっていた
6. スピード	今日の準備と先々の準備	11. ICT 活用の不安	動きと連動できた
	素早く動く		撮影が嫌い
	踊りにスピードは新境地		友達のタブレットに残る
	準備体操で意識できた		授業終了後はデータ削除
	動きの面白さになった		

カテゴリ	コード例	カテゴリ	コード例	
12. パターン化する	振付はパターンとの組合せ	16. 動きとして捉える	曲に合わせて最初から動く	
	考えられたダンス (教材)		難しいところから動く	
	パターン練習の繰り返し		動きを切り取る	
	パターンで考える体験		パターンの前の動き	
	パターンを知っている自信		体の動きとして捉える楽しさ	
	パターンがつながる達成感		動きのポイントが理解できた	
13. ICT 活用の利点	フレーズとパターンは確認しやすい	ダンスではなく動きとして捉える	手をあげる事もダンスになる	
	動きをそろえるために撮影	生活の中にもヒントがある	動きとして学ぶこと	
	自分の変化がわかる	動きがつながることを子どもが気づく	体を動かす仕組みに気づく	
	撮影に積極的	17. リーダーチェンジ	違う言葉で伝える	
	タブレットの積極活用		メンバーの受け取り方の変化	
	体育は動きを見られる利点		18. 動画教材	家族に見てもらいたい
体育館の ICT 準備	オンライン授業教材を家族で練習			
個人力を発揮できる	感動したという感想			
14. 技術習得の支え	忙しくても動画が見られる	家族で練習した		
	マーキング (小さく踊る) ができる	休み時間も見ていた		
	動画で復習できる	自分たちのための特別感		
	カウントを確認できる	見えない人が支えてくれる		
	専門家の指導を受けた	お手本動画がいつも見られた		
	踊りの準備運動という考え	次年度以降の汎用性		
15. チームでダンス	振り返る材料が必要	オンライン授業教材として使用できた	19. クラスの特徴	リーダーに直接指導
	4人のチームでできた	準備体操からスムーズにできる発見		
	チームに感謝した	準備体操からダンスにつながる気づき		
	キャリアが異なる教員と距離が近づいた			
	全体練習の役割分担			
	研修で教材を作り上げた経験			

## 5. 考察

本研究は、大学教員がダンス実技研修及び動画教材を提供した。4名の教諭が「ダンス実技研修」のダンス教材を用いて児童に指導し運動会でダンスの発表を行った実践後のインタビューを分析した。インタビューガイドは、「ダンス実技研修」「ダンス指導の意識」「ダンス指導とICTの活用」である。教諭の教育歴が6年～33年であった。教育歴からの検討はしていない。本研究は、教育歴の異なる4名の教諭が「オリジナルダンス教材」の習得・実践からダンス指導を行った後のダンス意識の変化をインタビューから検討した。

インタビュー結果から生成された20のカテゴリを概念図に示した(図2)。〈 〉は代表的なコード、【 】はカテゴリやコアカテゴリを示す。なお、〈 〉のカテゴリはインタビューデータの表現を用いた。

### (1) ダンス授業のイメージの変化

小学校の教諭は、〈とりあえずやらなければ〉〈誰も教えてくれない〉〈YouTubeで覚えるしかない〉【ダンス指導不安】やダンス実技の〈先生は踊れない〉〈自分で作るのは苦手〉などの【ダンス実技指導不安】があった。また、ダンス【教材情報】の選択肢が〈YouTubeで探す〉〈小学校の運動会の特集雑誌〉と少ないこともダンス

授業に対する【ダンス授業の孤独】を感じる状況につながっていた。

(2) ダンス指導場面の自信

小学校教諭は、〈踊る恥ずかしさ〉〈振付を覚える困難さ〉というマイナスの【踊りのイメージ】があった。今回のオリジナルのダンス教材は、ダンスの振付だけではなくダンスができる体づくりを研修の内容に含んだ。今回の実技研修の【カウント】【フレーズ】【動きとして捉える】体験は、ダンス実技指導の【自信】となっていた。また、ダンス授業において【繋がる準備運動】【スピード】という新しい知識は、新鮮な体験となったといえよう。特に踊ることのマイナスイメージを【パターン化】することで〈考えられたダンス〉と感じ〈振付はパターン組み合わせ〉という踊ることをプラスのイメージに変換できていた。また、〈パターンがつながる達成感〉〈動きのポイントが理解できた〉というダンスの成功体験となった。さらにオリジナルダンス教材に取り組んだ経験は、〈キャリアが異なる教員と距離が近づいた〉〈復習動画が共有の話題〉になった。【チームでダンス】に取り組むとい

う教授の視点になることが期待できる。特に教諭用の研修動画は、〈忙しくても後で動画が見られる〉〈振り返りができる〉という教員の技術取得の環境を整えたといえよう。ダンス技術の【技術習得の支えた動画】は、小学校教諭のダンス授業の自信にもつながった。

(3) 教え合う姿

5本の動画教材は、〈オンライン教材として使用できた〉ことで〈家族で練習した〉〈家族に見てもらいたい〉という児童の前向きな気持ちを引き出すことができた。さらに動画教材は〈リーダー同士の活発な交流〉を引き出した。一方で4人の小学校教諭は、ダンス研修動画や動画教材をそのまま活用するだけではなく、【クラスの特徴】に合わせダンス授業の展開にグループ学習を積極的に取り入れていた。動画教材を〈リーダーに直接指導〉をする際のエビデンスとして活用する一方で、児童が動画教材を見て動きを確認し発見する〈考える楽しさ〉を感じる体験で使い分け活用していた。さらに、グループ活動では、〈違う言葉で伝える〉〈メンバーの受け取り方の変化〉を見越しグループの

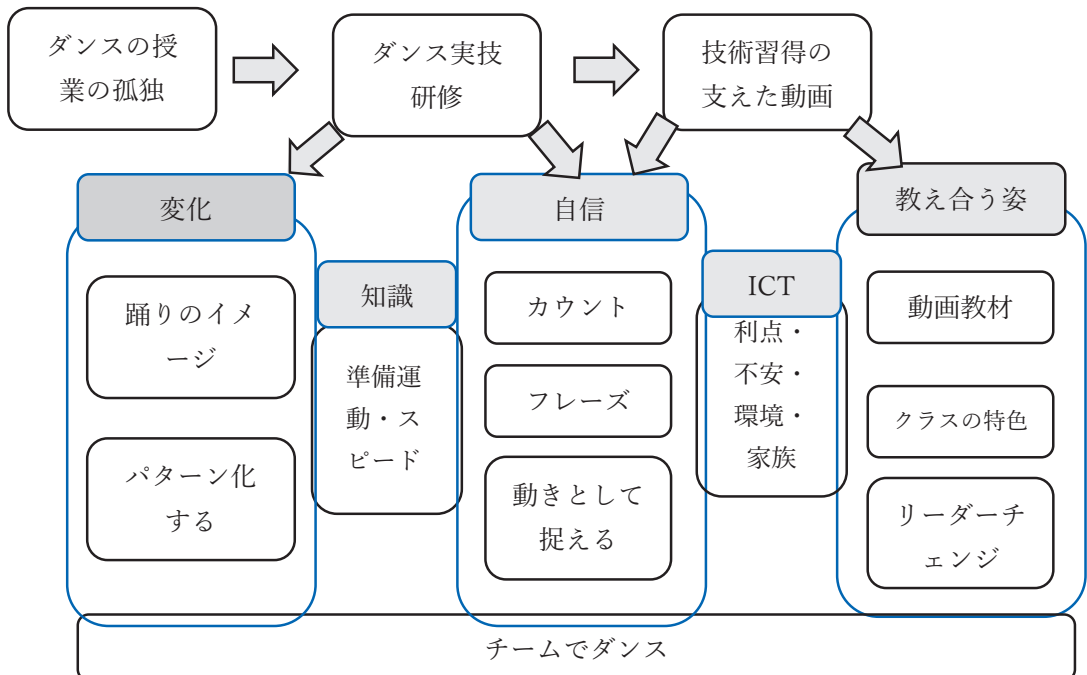


図2. 実践を通じたダンス指導の意識の概念図

リーダーを一時的に交代する【リーダーチェンジ】を行っていた。児童は〈動きをそろえるために撮影〉し【ICTの利点】を活用していた様子もうかがえた。反面、〈友達のタブレットに残る〉〈撮影が嫌い〉などの【ICT活用の不安】を抱えていた。小学校教諭は、ICT活用の不安に対して〈授業終了後に削除〉することやクラスで行っているダンスもひとりで撮影すれば〈自分の変化がわかる〉と丁寧に子どもの不安に寄り添い説明をしていた。

### おわりに

本研究では、ダンス指導を担当する教員の「知識不足に対する不安」「指導法に対する不安」に着目した。小学校ダンス授業教材の開発の基礎的資料を得るためにオリジナル教材を作成しダンス実技研修後のダンス指導意識に関するインタビューを行った。対象の小学校教諭は、ダンス授業にする技術的な不安やダンス指導に対する指導の不安を持ち適切な教材がないことを感じていた。山口ら（2015）の先行研究で定義された「ダンス指導不安」の具体的な事例を確認することができた。また、今回の実践では、ダンスを振付として考えるのではなく、「動きとして捉え」「カウント」「フレーズ」で動きを理解することで教員のダンス指導の自信につながっていた。さらにダンス実技研修動画や動画教材を教諭が復習できる環境がダンス授業指導の自信を支えたといえよう。

本研究は、1校のみの実践のため本研究はダンス授業の単元の開発には至っていない。今後は、単元の開発のために研修動画の分析および指導法について検討する。

### 引用文献

- 1 村田芳子（1991）ダンスの特性と学習指導、舞踊教育研究会編、舞踊学講義、大修館書店、東京、pp.132-141
- 2 中村恭子・涌井孝夫（2005）ダンス領域内の種目選択に影響を及ぼす要因の検討—創作ダンスと現代的なリズムのダンスの比較—、順天堂スポーツ健康科学研究、9：11-20
- 3 山口莉奈他（2015）ダンス必修化に伴う教員の不安構造の分析、日本認知科学学会第32回大会、309-321
- 4 山口莉奈他（2017）体育科教員のダンス指導不安の探索的研究、日本教育工学会論文誌、41（2）、125-135
- 5 和光理奈他（2018）小・中学校教員のダンス授業と苦手意識の考察、中京大学体育研究紀要、32：13-18
- 6 文部科学省（2018）小学校学習指導要領解説体育編
- 7 本間知可（2015）リズムダンスにおける即興表現の楽しさを味合わせる指導の工夫「やってみる・ひろげる」を位置付けたゴールフリー学習を通して、上越教育大学教育実践センター、27：145-150
- 8 青木由利子（2017）小学校表現運動の楽しさを味わい、仲間との関りを豊かにする子供の育成、女子体育、59（4・5）：16-21
- 9 湯浅理枝・高田康史（2019）小学校低学年における「リズム遊び」の指導法についての一考察—リズムに乗って体幹部を弾ませることに着目して—、広島文化学園大学大学院教育学研究科子ども学論集、5、29-40
- 10 柴山実穂（2019）小学校中学年のリズムダンスにおける単元開発に関する研究—「技能」とその視点に着目して—、日本体育大学院教育学研究科紀要、3（1）：187-200
- 11 寺山由美（2007）「表現運動」を指導する際の困難さについて—千葉県小学校教員の調査から—、千葉大学教育学部研究紀要、55：179-185
- 12 若井由梨他（2021）教育現場における「表現運動・ダンス」指導時の困難さについて—新潟市内小・中学校現職教員への実態調査をもとに—、新潟医療福祉学会誌 21（2）：67-77
- 13 鈴木慎一郎（2018）小学校の「総合的な学習の時間」における民謡学習：日本の民謡を探ろう、鳥取大学地域学部紀要、15（1）：71-79
- 14 文部科学省（2013）平成25年度版学校体育指導資料（第9集）、表現運動系及びダンス指導の手引き
- 15 文部科学省（2018）小学校学習指導要領解説体育編
- 16 湯浅理恵（2022）リズム系ダンス授業における児童の着眼点の変容と技能の習得—小学校低学年リズム曾比授業における児童の学習過程に着目して—、初等教育カリキュラム研究 10：27-37
- 17 嶋田賢太郎他（2018）：プログラミング教材を取り入れた体育科学習に関する研究—小学校第5学



- 年「ホップ・ステップ・ジャンプ」の授業実践を通して、日本デジタル教科書学会第7回次大会学会予稿集、85-86
- 18 中村恭子 (2016) 「現代的なリズムのダンス」 = ヒップホップダンスという誤解を解いて自主創造的なダンス学習へ、体育科教育、64 : 28-31
- 19 高橋和子 (2016) 改革期のダンスでいま、何が、どう問題か、体育科教育、64 (3) 16-19
- 20 佐藤郁哉 (2008) 質的データの分析法—原理・方法・実践、新曜社

